

韓国の産業都市「蔚山^{うるさん}」と工業都市「浦項^{ぼはん}」を訪問

～第5回クレアソウルセミナーの開催～

ソウル事務所

クレアソウルでは、韓国に駐在している日本の地方公務員の方々等を対象に、韓国の政治、経済、文化等についての理解をより一層深めていただくとともに、普段は各派遣先で勤務している会員同士がネットワークを構築し、今後の業務遂行の一助とすることを目的としてクレアソウルセミナーを実施しています。

今年度第5回目は、2013年3月7日～8日の二日間にわたり、蔚山広域市及び浦項市を訪問しましたので、その主な内容について報告します。

【蔚山広域市】～1日目～

1. 概要

首都ソウル特別市からKTX（韓国高速鉄道。Korean Train expressの略）に乗って南東に約2時間30分（約400km）行くと、蔚山広域市に着きます。蔚山広域市は、韓国にある6つの広域市の中では最も面積が大きく、市内の東に工業地帯、西南に農村が存在する人口約116万人（2012年6月現在）の都市・農村の複合都市です。また、古くから捕鯨が盛んなことでも有名です。現在、輸出額韓国1位、1人あたりのGDP韓国1位となっており、韓国経済をリードする韓国の産業都市となっています。



2. 蔚山広域市庁表敬訪問

1日目、私たちは蔚山広域市庁を訪問しました。お忙しい中、蔚山広域市のパク・メンウ市長が対応してくださいました。

市長との歓談の中では、1968年日本と韓国で最初に姉妹都市提携を結んだ萩市のお話が出ました。「当時は人口の差はほとんどなかったが、現在は約20倍の開きができた。しかし、都市の規模が問題ではなく、お互いを尊重し、絆を大切にこれからも姉妹都市交流を深めていきたい」とおっしゃいました。

また、セミナー会員のうち下関市からの派遣職員に、クジラ捕鯨についての資料を提供してもらっていることへの感謝の言葉を述べてくださいました。さらに、セミナー会員からのどのように多文化共生への取組みをされているか、との質問については、蔚山広域市に来ている多くの外国人労働者はとても大事な人材なので、グローバルセンターを設けたり、会社側に人権問題についての指示をしたりして、政策を広げていると丁寧に答えてく

いただきました。¹

3. SK エネルギー及び現代自動車の視察

続いて、蔚山広域市の主力企業、SK エネルギーと現代自動車を視察しました。

SK エネルギーでは、まず、広報ビデオを視聴した後、敷地の模型を使って、施設的位置や生産過程等について説明していただきました。その後、バスに乗って実際の敷地を見学しました。石油元売り会社からグローバルエネルギー企業へと成長してきた過程について、また二酸化炭素を使って製品を作る新しい技術開発を進めていることも話していただきました。



SK エネルギー視察

現代自動車では、同じく広報ビデオを視聴させていただいた後、現代自動車の歴史・概要について説明していただきました。その後はバスに乗って敷地を回りながら、自動車生産工場と輸出専用埠頭を見学させていただきました。

SK エネルギー・現代自動車とも、生産規模が大きく、蔚山広域市が産業都市を形成するうえで主力企業としての役割を担っているのはもちろんのことですが、敷地の 10%を緑化したり、道路や施設を作って寄付をしたりするなど、環境保護や社会貢献活動にも力を入れているとのことでした。

4. 死の川から命の川へ蘇った^{てふあがん}太和江

次に、私たちは太和江に移動しました。太和江は蔚山広域市を東西に横断する長さ 47.54km の川です。

太和江は元来きれいな川でしたが、蔚山広域市の産業化が進むにつれて、汚染が進み、2002 年には魚が住めない死の川となってしまいました。その後、市長の決断により太和江を蘇らせるプロジェクトが開始され、行政機関のみならず、環境団体・企業・市民が協力し合って事業を進め、命の川へと蘇りました。現在は、太和江で全国水泳大会が開催され、また渡り鳥の生息地として位置づけられ、2009 年には「美しい川 100 選」の中で最優秀河川に選ばれるまでになりました。今や太和江の成功事例が広く知れ渡り、視察に訪れる機関や団体が多いと



¹ 蔚山広域市庁表敬訪問 (蔚山 MBC) (韓国語)

のことでした。私たちは説明を聞いた後、実際川辺にある竹林や整備された遊歩道を歩いたのですが、市民がウォーキングをしたり自転車に乗ったりする姿が見られ、市民の憩いの空間として利用されていることを確認することができました。

【浦項市】～2日目～

1. 概要

浦項市は、慶尚北道東海岸の人口約 52 万人（2013 年 1 月現在）の港湾都市であり、かつては迎日湾^{よんいる}に面した漁港でしたが、1970 年代初頭に浦項総合製鉄（POSCO）が誕生して以来、韓国有数の工業都市として発展しています。

2. NEAR（北東アジア地域自治体連合）事務局及び浦項市庁表敬訪問

2 日目は NEAR 事務局及び浦項市庁を訪問しました。NEAR 事務局では、キム・ジェヒョ事務総長から、NEAR の概要・事業説明をしていただき、意見交換をする機会もいただきました。²

また、浦項市庁ではチョン・ビョンユン副市長が対応してくださいました。

歓談の時間には、日本の自治体福山市・上越市の名前を挙げながら、姉妹都市交流を推進していること、また、試験運行の定期フェリーが浦項の迎日湾から 200 人を乗せて京都の舞鶴港に行ったお話もされ、舞鶴港との新たな経路が一刻も早く開設されることを願っている、とおっしゃいました。³

3. POSCO（ポスコ）視察

次に、韓国最大の製鉄会社である POSCO を視察しました。まずは広報ビデオを視聴し、その後一部の工場ラインを見学させていただきながら、概要・生産過程・勤務体制等の説明を聞きました。SK エネルギーや現代自動車と同様、韓国の主力産業として発展を遂げている姿を伺い知ることができ、一方で「森の中の製鉄所」を目指して緑化を進めていることや、ポスコ道路・大橋等を作って市に寄付するなど、環境保護や社会貢献活動も進めているとのことでした。

4. 九龍浦^{くりよんぽ}日本人家屋通りと韓国の日の出スポット^{ほみごっ}虎尾串

² NEAR 事務局表敬訪問（NEAR ホームページ）（日本語）

http://www.neargov.org/jp/page.jsp?pageNo=1&cmd=258&bod_uid=48408&srchEnable=0&srchKeyword=&srchSDate=&srchBgUid=-1&mnu_uid=2720&srchEDate=&srchColumn=&

³ 浦項市庁表敬訪問（慶北日報）（韓国語）

http://www.kyongbuk.co.kr/main/news/news_content.php?id=615194&news_area=110&news_divide=&news_local=10&effect=4

続いて日本人家屋通りに移動しました。浦項市は昔からニシンやイカ等を中心とした漁業が盛んな地域で、日韓併合前から香川県や岡山県などの漁業関係者が活発に往来しており、次第に多くの日本人が九龍浦地区に居住し、日本人街が形成されるようになったとのことです。最盛期には旅館、日本料理屋なども存在していたとのことです。終戦後はすべての日本人が日本に戻りましたが、現在、現存する日本家屋 47 等を補修・復元し、観光事業の一環として当時の町並みの再現を進めている、とのことでした。近代文化歴史館では、当時の日本人が住んでいた家屋がそのまま残っており、中に入るとパネルやビデオ映像を通して、また、ボランティアの方の詳しい説明を通して、当時の様子を興味深く聞くことができました。

次に、韓国で最も早く日の出が見える場所といわれている「虎尾串」に移動しました。韓国での日の出スポットは虎尾串の他にもいくつかありますが、「手」のモニュメントによるイメージ戦略で虎尾串を訪れる方々が増えているとのことでした。



九龍浦日本人家屋通り



虎尾串（「手」のモニュメント）

○蔚山広域市と浦項市のこれから

浦項では、2014 年末を目途に、KTX の浦項直結線が完工する予定です。現在、ソウルから浦項までは新慶州駅で乗り換えて2時間23分かかりますが、この直結線が開通すれば、1時間50分で行き来することができるようになります。KTX 効果によって、今後、観光産業などの経済活性化に期待がもたれています。

産業都市として韓国経済をリードしながらも環境に優しい生態都市を目指す蔚山広域市。一方で POSCO を中心とした韓国有数の工業都市にとどまらず、2009 年の迎日湾国際コンテナ港開港により物流拠点都市として更なる発展を目指す浦項市。

これからますます発展していくことが期待される2つの都市の動向を引き続き見守りたいと思います。

最後に、このセミナーを実施するにあたって、多大なご協力をいただきました蔚山広域市・浦項市・NEAR 事務局の方々を始め、当日お世話になった蔚山広域市・浦項市・NEAR 事務局職員のみなさまにこの場を借りて厚くお礼を申し上げます。

(長谷所長補佐 富山県派遣)